

# 令和5年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター傷病記録等から)

※ビジターセンター未対応の傷病事故は含まれません



(R5. 5. 27 消防隊に協力して救助活動を行う)

令和5年度12月

公益財団法人 尾瀬保護財団

## 目 次

1	入山者数の状況.....	1
2	傷病事故の発生状況.....	1
	(1) 年度別発生状況.....	2
	(2) 地区別発生状況.....	3
	(3) 原因別発生状況.....	3
	(4) 時期別発生状況.....	4
	(5) 月別発生状況.....	4
	(6) 年齢別・男女別発生状況.....	4
	(7) 傷病者の居住地別発生状況.....	5
	(8) グループ人数別発生状況.....	5
	(9) 傷病事故の通報状況.....	6
3	救助活動.....	6
	(1) 救助出動状況.....	6
	(2) ヘリコプター要請状況.....	7

## 1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は道路開通後であり、おおよそ5月の大型連休後から10月末までであるが、同期間に環境省が各登山口に登山者カウンターを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半で推移し、平成8、9年度は60万人台前半まで増加した。こうした利用者数の増加により、尾瀬の生態系への影響が懸念されたが、平成10年度には景気低迷などの影響から入山者数は約46万人に減少し、平成14年度までに40万人台で推移し、平成17年度には平成元年度からの計測以来最低の約31万8千人となった。

平成20年度以降は尾瀬国立公園の拡張エリアを含めての数値だが、平成23年度には東日本大震災やそれに伴う原子力発電所の事故、また同年7～9月にかけて尾瀬や周辺の集中豪雨による木道流失・通行止め等が影響し、28万1千人と計測以来初の30万人を下回る結果となったものの、その後平成27年度まで30万人前半をほぼ横ばいで推移していたが、28年度以降再び20万人台に減少している。

令和2年度に発生した世界的な新型コロナウイルス(covid 19)蔓延による緊急事態宣言等により入山者は激減したが、令和5年度に入り新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類感染症に移行され、尾瀬の入山者数も回復傾向を示している。

入山者数の推移

年度	入山者数 (人)	対前年比
平成1年	467,090	
平成2年	505,840	108.3%
平成3年	515,090	101.8%
平成4年	539,790	104.8%
平成5年	540,264	100.1%
平成6年	542,058	100.3%
平成7年	534,196	98.5%
平成8年	647,523	121.2%
平成9年	614,317	94.9%
平成10年	455,409	74.1%
平成11年	425,807	93.5%
平成12年	428,446	100.6%
平成13年	448,041	104.6%
平成14年	409,942	91.5%
平成15年	384,251	93.7%
平成16年	341,558	88.9%
平成17年	317,847	93.1%
平成18年	341,369	107.4%
平成19年	354,901	104.0%
平成20年	381,700	107.6%
平成21年	322,800	84.6%
平成22年	347,000	107.5%
平成23年	281,300	81.1%
平成24年	324,900	115.5%
平成25年	344,200	105.9%
平成26年	315,400	91.6%
平成27年	326,100	103.4%
平成28年	291,860	89.5%
平成29年	284,390	97.4%
平成30年	269,700	94.8%
令和1年	247,700	91.8%
令和2年	106,922	43.2%
令和3年	113,795	106.4%
令和4年	154,724	136.0%
令和5年	163,499	105.7%



## 2 傷病事故の発生状況

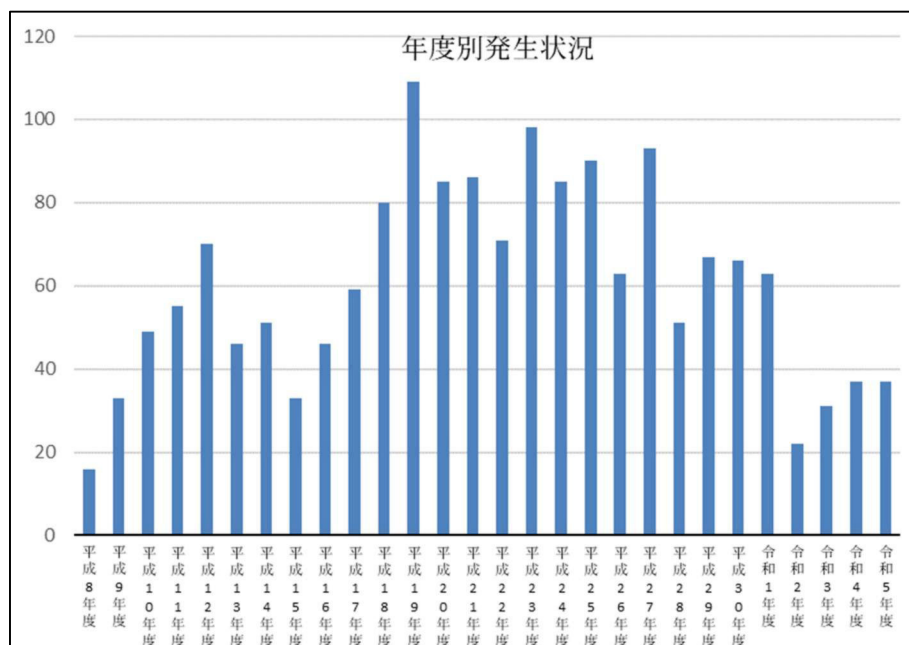
令和5年度に公益財団法人尾瀬保護財団（以下、当財団とする）が管理を受託した尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）及び尾瀬沼ビジターセンター（環境省より管理受託）において、職員が対応を行ったものについて作成した。

## (1) 年度別発生状況

令和 5 年度に当財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター及び尾瀬沼ビジターセンター職員が対応した傷病事故は 37 件で昨年と同数であった。

年度別発生状況

年度	区分	発生件数 (件)	傷病者内訳				
			死亡	病気	行方不明	負傷	その他
平成 8 年度		16				16	
平成 9 年度		33	2			31	
平成 10 年度		49	4			45	
平成 11 年度		55	1			54	
平成 12 年度		70	2			68	
平成 13 年度		46				46	
平成 14 年度		51	2			49	
平成 15 年度		33	1			32	
平成 16 年度		46	1			45	
平成 17 年度		59				59	
平成 18 年度		80	3			77	
平成 19 年度		109	1			94	14
平成 20 年度		85	1			73	11
平成 21 年度		86	1			70	15
平成 22 年度		71				58	13
平成 23 年度		98		4		69	25
平成 24 年度		85	1	3	1	62	18
平成 25 年度		90				77	13
平成 26 年度		63				61	2
平成 27 年度		93		4		69	20
平成 28 年度		51		3		41	7
平成 29 年度		67	1	9	2	51	4
平成 30 年度		66	1	6		59	
令和 1 年度		63		5		58	
令和 2 年度		22	1			21	
令和 3 年度		31		1		27	3
令和 4 年度		37	1	5		28	3
令和 5 年度		37		2		34	1



## (2) 地区別発生状況

地区別では鳩待峠～山ノ鼻間が一番多く発生し全体の 43.2%となった。全体の入山者数に比例して傷病も増減する傾向であるが、入山口の利用数にもこの傾向が当てはまるようだ。

地区別傷病発生件数 (R5年5月～10月)

地区	区分	発生件数 (件)	発生比率	傷病者内訳					(参考)令和4 年度
				死亡	病気	行方不明	負傷	その他	
鳩待峠～山ノ鼻(VC周辺含)		16	43.2%				15	1	20
尾瀬ヶ原(研究見本園含)		10	27.0%				10		6
大江湿原～尾瀬沼北岸(VC周辺含)									3
三平下～大江湿原									
三平下～尾瀬沼南岸		1	2.7%				1		2
沼山峠～大江湿原		2	5.4%				2		1
大清水～尾瀬沼		1	2.7%				1		
沼尻～見晴									5
見晴～御池(平滑ノ滝、三条ノ滝含)		1	2.7%				1		
至仏山									
燧ヶ岳		3	8.1%				3		
アヤマ平									
その他		2	5.4%		1		1		
不明		1	2.7%		1				
合計		37	100%		2		34	1	37

## (3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道での転倒・転落による事故が 28 件で、全体の 75.7%と過半数を占め、前年度の 56.7%と比較すると増加傾向である。原因は写真撮影や景色を眺めるなどよそ見による足の踏み外し、雨や雪などで滑ったことによる転倒等様々である。木道は、高架や段差・階段になっている場所もあり、ちょっとした気の緩みが命に関わる大事故にもつながりかねない。また、疲労などで歩行困難になる事例も見受けられ、日常生活での体調管理や無理な行程に起因する場合も多く、ゆとりをもって行動と装備は不可欠であるとともに、自身の体力を過信しないことが重要である。

事故の多くが、入山者の気の緩みや不注意から生じており、尾瀬利用者への注意喚起を行う等の呼びかけに力を入れていく必要がある。

原因別発生状況 (R5年5月～10月)

原因	区分	発生件数 (件)	傷病者内訳					(参考)令和4 年度		
			死亡	病気	行方不明	負傷			その他	
						自力下山	搬送		自力下山	搬送
木道上の転倒		28				19	9		21	
歩道上の転倒		5				4	1		2	
病気		1		1					4	
疲労・低体温		2		1				1	4	
落石										
道迷い										
雪崩・雪渓崩落										
落雷										
徒渉失敗(よそ見等)									2	
その他		1				1			4	
不明										
合計		37		2		24	10	1	37	

\*疲労・低体温：体調不良やふらつきなど \*自力下山か搬送かは救助隊出動の有無

#### (4) 時期別発生状況

先シーズンと同様の傾向で発生している。秋は木道上で滑って転倒するケースが多いため、雨や霜などで木道が滑りやすくなっている場合には、特に注意が必要である。

時期別発生状況（R5年5月～10月）

時期	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 令和4年度	
			死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
						自力下山	搬送	自力下山		搬送
春(4・5・6月)		14				8	6			16
夏(7・8月)		9		1		6	2			9
秋(9・10・11月)		14		1		10	2	1		12
計		37		2		24	10	1		37

#### (5) 月別発生状況

月別ではさほど発生件数の差はないが、搬送対象となる重傷ケースが多かったのは5月で、7件中5件が搬送され、その内3件はヘリコプターでの搬送となった。多くの転倒・転落負傷の原因と考えられるのは、よそ見や写真撮影、会話に夢中になりすぎた事や、無理な行程による疲労などが挙げられる。

月別発生状況（R5年5月～10月）

月	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 令和4年度	
			死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
						自力下山	搬送	自力下山		搬送
4月										
5月		7				2	5			7
6月		7				6	1			9
7月		5				5				5
8月		4		1		1	2			4
9月		6		1		4	1			4
10月		8				6	1	1		8
11月										
合計		37		2		24	10	1		37

#### (6) 年齢別・男女別発生状況

年齢別では、30代以下が10.8%、40代以上が86.5%と、中高年の傷病事故割合が圧倒的に高い。この年代は救助隊によって搬送される重傷のケースも多い。

年代別・性別発生状況

年齢	区分	発生 件数 (件)	令和5年					令和4年				
			男		女		男女計 (%)	男		女		男女計 (%)
			(件数)	比率(%)	(件数)	比率(%)		(件数)	比率(%)	(件数)	比率(%)	
20歳未満		2	1		1			2		3		
20代				5.4%		5.4%	10.8%		5.4%		13.5%	18.9%
30代		2	1		1				2			
40代		3			3			1				
50代		5	1		4			2		5		
60代		16	11	51.4%	5	35.1%	86.5%	7	48.6%		32.4%	81.1%
70歳以上		8	7		1			8		7		
不明		1			1	2.7%	2.7%					
合計		37	21	56.8%	16	43.2%	100%	20	54.1%	17	45.9%	100%
					37					37		

## (7) 傷病者の居住地別発生状況

例年同様に、東京都・を中心とした関東圏が大半を占めている。尾瀬入山者の居住地別割合をそのまま反映した結果と思われるが、気軽な登山と油断してしまうことも原因と考えられ、時間や体力を考慮した計画と事前の準備が必要である。

都道府県別

都道府県	区分	傷病者内訳						合計	(参考) 令和4年度	
		死亡	病気	行方不明	負傷		その他			
					自力下山	搬送	自力下山			搬送
福島県						1		1	2	
茨城県						2		2	1	
栃木県									2	
群馬県			1		3			4	3	
埼玉県					1	1		2	3	
千葉県					1	1		2	4	
東京都					8	1		9	5	
神奈川県					4		1	5	9	
新潟県			1		1	1		3	1	
静岡県					1			1		
愛知県					1			1	1	
三重県					1			1		
大阪府					2			2		
兵庫県						1		1		
奈良県									1	
福岡県									1	
大分県									1	
宮崎県					1			1	1	
海外						1		1	1	
不明						1		1	2	
合計			2		24	10	1	37	37	

## (8) グループ人数別発生状況

前年度と同様、本年度もグループの事故発生率が高い結果となった。ツアーについては、ガイドによる安全管理ができていないツアーもあるが、ガイドも添乗もないツアーもあり、安全管理に課題もある。

傷病事故発生時に手当やレスキューを真っ先に行うのは、同行者であることが多いが、重度の傷病事故の場合にはセルフレスキューが困難であることから、単独行は十分な注意が必要である。

形態	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳						比率 (%)	(参考) 令和4年度	
			死亡	病気	行方不明	負傷		その他			
						自力下山	搬送	自力下山			搬送
単独		11				9	2		29.7%	9	
グループ		23		1		14	7	1	62.2%	23	
ツアー		2				1	1		5.4%	5	
学校		1		1					2.7%		
不明											
合計		37		2		24	10	1	100%	37	

### (9) 傷病事故の通報状況

今年度の通報は、傷病者本人または同行者がビジターセンターや山小屋へ来所し、口頭で行っている。尾瀬では、携帯電話の通話エリア圏外の場合、最寄りの有人施設に駆け込む必要があり、そこからビジターセンターへ連絡が入ることもある。近年、携帯電話のエリア内であった場合、当事者が直接救急要請する事例も増えている。

通報方法	区分	通報者					合計	比率 (%)	(参考) 令和3年度
		本人	同行者	他人	山小屋	その他			
口頭		3	15	2		5	25	86%	100%
携帯電話					3		3	10%	
電話									
無線						1	1		
その他									
合計		3	15	2	3	6	29	100%	100%
比率		10%	52%	7%	10%	21%	100%		

\* 山小屋・救助隊：ビジターセンター職員対応のものも含める

## 3 救助活動

### (1) 救助出動状況

ビジターセンター職員は救助隊の緊急要員としても出動している。

傷病者対応時の出動状況

年度	出動区分	消防 警備隊 (件)	救助隊 (件)	ビジター センター (人)	一般 (人)	発生件数 (件)
平成15年度		8	10	19		33
平成17年度		16	12	35		59
平成18年度		17	22	77		80
平成19年度		10	18	106	2	109
平成20年度		15	12	68		85
平成21年度		16	18	86	1	86
平成22年度		21	22	69		71
平成23年度		15	15	98		98
平成24年度		16	19	85		85
平成25年度		7	16	87		90
平成26年度		12	12	63		63
平成27年度		19	24	68	1	93
平成28年度		9	8	39		51
平成29年度		24	9	58		67
平成30年度		11	8	61		66
令和元年		14	6	63		63
令和2年		3		21		22
令和3年		4		38		31
令和4年		6	6	62		37
令和5年		12	2	60		37

\* 消防：防災ヘリを要請した件数(担架搬送も含める)

\* 救助隊：近隣の関係者が出動した人工

\* ビジターセンター職員が関与した人工

H27年度までの救助隊の数は救急車の要請



## (2) ヘリコプター要請状況

今年度のヘリコプター搬送は9件だった。

### 防災ヘリコプター搬送状況

年度	出動区分	依頼 件数	負傷者 救助	病人等 救助	行方不 明捜索	遺体 収容	収容人 数計
平成 10 年 度		3	3				3
平成 11 年 度		5	5				5
平成 12 年 度		7	5	1	1		7
平成 13 年 度		6	6				6
平成 14 年 度		6	4	1	1		6
平成 15 年 度		6	4	1			5
平成 16 年 度		7	7				7
平成 17 年 度		12	8	4			12
平成 18 年 度		8	3	3		2	8
平成 19 年 度		11	6	4			10
平成 20 年 度		13	10	3			13
平成 21 年 度		9	7	2			9
平成 22 年 度		17	14	3			17
平成 23 年 度		14	10	4			14
平成 24 年 度		15	11	2	1	1	15
平成 25 年 度		7	7				7
平成 26 年 度		9	8	1			9
平成 27 年 度		19	14	5			19
平成 28 年 度		5	4	1			5
平成 29 年 度		13	7	5		1	13
平成 30 年 度		11	5	6			11
令和 元 年		6	6				6
令和 2 年		-	-	-	-	-	
令和 3 年		4	4				4
令和 4 年		6	6				6
令和 5 年		12	7	2			9

※尾瀬山の鼻V C、尾瀬沼V Cで対応した件数